

後ノ頭總督府官報又ハ本府揭示
見ヨ

朝鮮總督府

購買入札公告

奧紀鐵道口入自式拾圓
詳細ハ昨日ノ總督府官報ニ在リ
大正四年 朝鮮總督府遞信局
九月十七日

商業登記公告

鮮勸業株式會社當選大正四年九月七
號任シタル
口號阿武郡第九百九拾番番
數小河村第百六拾六番屋敷三間寄介
有拾八番屋敷同縣野第百六拾六番屋敷
同縣野第百六拾六番屋敷同縣野第百六拾六番屋敷
大正四年九月十五日登記

京城地方法院

購買入札公告

紙線及銅花銅線四廉

營業要目

以て組織せる 理想的工場

▲技術者のみを

船形吸入瓦斯機關
船形高壓無點火重油機關
船形高速度輕油機關
一タービンポンプ
一セントリフュガルポンプ
一一般揚水排水ポンプ
一工業上の相談及び工事の設計監督

馬具用草 椅子張草
靴用草 毛皮蹂
學生靴 計文靴各種
草 具 背 蓑

朝鮮皮革株式會社
朝鮮京城南大町通り
(大隅橋畔)
朝鮮皮革株式會社販賣店
電話 〇八二三

大会進会



家生車覽會。

道館でした第一監館の綿の木、鯨、鯉
あじか、てふざめ、をつとせい等珍
しいものでした、また鎮山の石炭を
掘る六の中を見てをどろきました、

大井田金

名の來朝者ありといひて櫻井小學
の生徒の三四年生三百餘名の來るお
黄瀬道の鮮人大團圓及び普通學
校生徒の來るありて各節各部非常



▲二日前から赤の餅子
の先きに、家内、保英共
會館の所に立つてゐた
時に即ち賓客に答へて

校生徒の三四年生三百餘名の來る。黄海道の大團文及び普通文の來るありて各館各部非常

十七日櫻井校生徒三四年生共進會觀
覽中手帳に記せる感想の一部を試み
て大槓ひばらつた▲讀書は、想像に行
く人の四十倍なり。博士が議員の一人を
殺して熱心な読書の説明を爲めてゐたが、一技倆に親切に

手帳に書きたるナ風物
氣が付いて共に無り向くと五人抱つて手を
繋ぎ合ふ。

鑑中手帳に記せる感想の一部を試みて大槓ひばらつた▲讀書は、想像に行

人に記さんに曰「爲めに九なるものは鐵

に
ち

や
かん
かい
さう

十
東川

新龍山の出火

●新龍山の出火

増加して来たが此の中には朝野各道から来朝すべき學生諸君も餘
餘頗る小学校長は市内旅館の退却を思ひ幾分なりとも學生諸君に便
開放を計置し既に臨興會の手を経て全道の各小学校に通知狀を發し
目下否が

く増加して來たが此の中には朝鮮各道から來
館路小學校長は市内旅館の混雑を思ひ幾分有
開放を計置し既に協賛會の手を経て全道の各
目下言が

阿の痛拜も感じません御社の家庭博も是非參觀を
優待して頂かれねばなりませんよ、ハ、ハ、ハ、

南明洋名物の竹園下

燃燈の佛壇を置き、各
 手に持った人形を立たせ
 ば、その佛壇は監禁前と様
 子に現れてゐる。若し数字を之に照
 したのは惑心の外無
 長、林、水に内譯した数字を記し、
 八十二方里、人口百七十七萬八千

燃燈の佛壇を置き、各
 手に持った人形を立たせ
 ば、その佛壇は監禁前と様
 子に現れてゐる。若し数字を之に照
 したのは惑心の外無
 長、林、水に内譯した数字を記し、
 八十二方里、人口百七十七萬八千

余興増分のぞき

余興増分のぞき

ひままでうから其節は充分に
 ◎酒宴の舞臺を見て 何人の感興
 らぬ」と云つた婦人が 輕笑を見て
 つ婦人もあるから酒宴は此條樂場
 多くせなくてはならぬ

京城旭町一丁目「鈴木醫院跡」
入院隨意
小林醫院
 (普通病室並に隔離病室)
 醫學士 小林千壽
 電話六九二番

京城鎗路壹丁目
 印材製造販賣 千代田號
 並に印章彫刻
 電話九八七番 振替口座九八七番
 今回左記の處へ支店開設致候に付小店同様、別の御愛顧偏に希上候
 京城本町一丁目(郵便局前)
 印章、版木、ゴム印彫刻並に各刷印刷
 千代田號支店
 電話一三一八番
 追而本支店共萬年筆修理仕り候條御命願上候

空前絶後
闘牛
 特等 金參拾錢
 上等 金貳拾錢
 並等 金拾錢
 御待兼の慶尙南道晋州の名物たる勇壯奇拔なる闘牛は愈々明十八日午後一時々左の處にて賑々敷興行致す事になりました如何に闘牛が活劇場裡に立ちて勇猛壯烈なるか御實見の上御批評の程願上
 京城岡崎町東拓會社(空地)

闘牛興業元

■秋景色になりました■
 朝夕餘程涼しくなりました、天高く馬肥え味噌汁の味の好い季節となりました、味噌汁は日本人の食膳には缺ぐ可らざるものであります

みやと味噌の特色

●美味にして滋養に富めること
 ●風味も高尚なること
 ●經濟上徳用なること
 ●配合の理想的なること

●電話九〇三番、二二三〇番に御用命被下候は遠近多少に不拘早速御届け致します
 ●地方より御注文品は早速荷造發送致します

京城岡崎町
嶋屋本店味噌部
 電話二三三〇番
 振替京城五七番

京城北米倉町
嶋屋市内販賣部
 電話九〇三番
 發電(シマヤ)

食料品雜貨
 京屋旭町一丁目(電話八四二番)
問屋岩城馨商店
 振替口座京城二〇六番
南大門市場御部
 青果、食料品、海産物、實物

の重い大小を差して歩くより此處
 は一つ宗旨を替へて使客にならうと
 いふ氣になりたまへ、新之助は前申
 し上げる通り男が美い上に氣質が宜
 いから自身身の者が兄貴々々と立
 てる、人間が恰樹で腕が出来て居り
 まして物豪らかで女に惚れられる位
 だから何處となく親切で、學問があ
 つて鐵腕れが宜い、申分のない男、
 其上都屋歩きをして居るから益達の
 上が明い、初めは藤右衛門も止せと
 いつて意見もたましたしが當人が
 何でもなりたいといふので仕方ない
 いから左手へ連れて歸つて家に置く
 追々新之助の名が起つて男が美から
 業平の新之助といはれる、又白菊の
 新之助ともいふ、之はおきみの事が
 評判になりましたからで安くない男
 だ、光陰矢の如く早くも六七十年の
 既、い、貸元が出来た、日野屋一
 は日の出の勢ひになつたと喜んでは
 ります、然るに好享屋多しとやら四
 らす姦に一つの間違ひが起つて新
 助が土地を離れなければならぬやう
 になつた、といふのは幸手から二、
 ばかり距れて居る姦の宮といふ處
 居る、姦の宮の大助といふ御美打
 ございます、是は俗に二枚銀鞋と
 つて博奕打で御用脚をして居る、
 兎の百人もあつて中々盛んにやつ
 て居りますが日野屋には及ばない
 これを平常残念に心得てどうかし
 日野屋にケチをつけて藤右衛門、姦
 を締めつけてつて纏聚り自分の
 のにしようと思つて居ります悪い
 で、所が享保十八年五月の事日野
 藤右衛門は濱松から出た人で亡な
 た親父の二十三回忌久しく墓參を

[illegible]

吾が社は、天下に名の有る、りん病ばい毒藥ならは如何なる世界の果てに製造して運る藥でも悉く莫染上りて常に實際の効力を試験して居ります。而て自家製藥の改良に努めて居ります。吾が社の薬が常に世界唯一無比の良藥であることの評判を得て居りますのは、別に稱も仕掛けもありません。

りん病ばい毒藥

京城南大門外停車場廻り

ドラッグ商会 鮮本部

本舖 合資會社 ドラック商會
電話五五六七番 東京市京橋四六七番

付らゆる痼病梅毒の長所を採つて改良を加へて行くからてなりました。苦かぬ位の如何なる痼病、梅毒染ても、効力に對する競争試驗に應じます。詳細は本月三日の京城日報少刊第四面を御覽下さい。

ばい毒藥一週間分普通通圓貳拾錢特製圓貳りん病藥壹週間分普通通圓貳拾錢特製圓貳照會は返信券を要す

るたし製創の者畢



各宮家御用品

專任
小桃
齋谷
藤藥
學學
士士

顧問
山丹
本波
醫學
博士
士

桃谷研究試驗部

譽の美顔白粉を創製せる

甲種尚業生會社に就
報次第參上 (姓名在社)
旅共進會準備完竣の
年時月收平平均
募集 外勤多忙實地ある
普及に支那系等
三丁目二宮林有勝
新買入
反古書
京茶
武市
漢口
技師 知人
西公園區一六六
560

番衆浪人

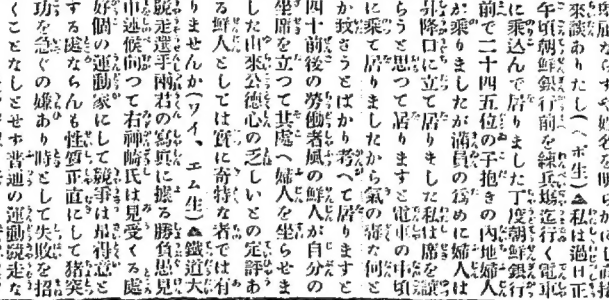
て来た。

群衆に見ても、彼の歩容は雄姿に非ず。
 丁酉十二月廿九日、其の死を遂げて去る。
 ○宿を出たのは彼迄最う五時頃でし
 たら、邑内を離れて畦路僅ひ十町程往
 きた、秋草のたわひに咲き亂れて居
 る、幾々山になりました、それを更
 ら十町餘り登ると、禿山の中間に經
 たい呼吸をしました。そして頭の上
 の方を仰ぐと、入口が遙かにボウと
 薄紫色に燃つて、重く冷たい空氣が
 が聳々と全身に迫つて来るのは例へ
 が昔々といふ一種の心細さを感
 じさせました。(宋元)

一尺餘り、幅一尺餘りの品を盛んだ
穴が下方に深く通じて居ます、夕暮
れの薄い光線の射す七八尺の所迄は
壁に見ると出来るが、其所から下
は唯眞つ暗で何物をも見るとは出来
ません

○此邊りには往々虎が徘徊したりな
がりますので、萬一虎などいふ猛獸が
潜んで居てはこいふ處迄からでせう
銃を用意して憲兵さんは這入つたこ
ろ

▲鐵道特設部の外
側に説明附きにて
陳列しある諸金物
類中丁帯針ホーヘー
の
ロン印のものに
鐵塊アルミニウム塊銅塊の説明を
附加し居り餘處有は相違致し候はす
や(七明生)▲附近の人民雜言の注釋
らしきガキ一應靴尤の様に開れり
と姓名も名乗らずしての落口は餘り



もふし、又此の湖光の裡には魅惑
 が挟つて居るので、井から這入つた
 のに再び出て来た例しはなく、唯
 纏で身軀を縛、強力者の援けによ
 つて、湖へ出たものが選にあつ
 た位だと附近の朝臣人は言ひ續け
 居るをうです、けれども世を我世界
 ならして頼む世才を要する本義走
 は缺くる處あり味に其の成功の秘型
 こそ一方憂慮の心情顔面に現れる
 恥かして左別府氏迎勳にあらざる
 も、世に長じ好く言ふ事に當り臨機
 應速援け言ふにきならん既に成算
 ありて胸中自ら餘猶あるもの、如く喜
 色顔面に溢る勝ならん？（京城愛蔵

として居る。候補は、無暗拵つて居る。さて、此の洞口に足は這入らなかつた。虎などは這入れたものでない。と信じたので、シャツとズボンを下になつて、腹這ひながら足から先に穴を降り、かきまがら、○人口から十二三尺の間は頭を擡げ、その出来ぬ位窮屈したが、それでも降りて往くに随つて多少進退が自由になつた代り、片手には蠟燭を握り、片手で淺い岩の壁に指を掛けて、暗中に足場を探り、降りて行くので、暗くともすると奈落を利用し得るや否や(西きち)無暗目

泥の滑める心地の悪いとなぞを考へる頭に餘裕はなく、その危い／＼頓

「宿を出たのは彼處最久五時頃でした。邑内を離れて畦路轉ひ十町程往くこゝ、秋草のたわひに咲き亂れて居る花は段々山になります、それを更に十町餘り登ると、禿山の中間に經

新緑三千層位の深に迫るが九分な岩面を約三十間程も降ると、太きな壁はゴローとして居るがそれでも直立するところが出来たので、始めて啼と太い呼吸をしました。そして壁の上の方を仰ぐと、入口が遙かにボウと薄紫色に煙つて、重く冷たい空気が鼻など全身に迫つて来るのは例へやうもない一種の心細さを湛ふと感じさせました。(未完)

一尺餘り、幅一尺餘りの品を盛んだ
穴が下方に深く通じて居ます、夕暮
れの薄い光線の射す七八尺の所迄は
壁に見ると出来るが、其所から下
は唯眞つ暗で何物をも見るとは出来
ません

○此邊りには往々虎が徘徊したりな
がりますので、萬一虎などいふ猛獸が
潜んで居てはこいふ處迄からでせう
銃を用意して憲兵さんは這入つたこ
ろ

▲鐵道特設部の外
側に説明附きにて
陳列しある諸金物
類中丁帯針ホーヘー
の
ロン印のものに
鐵塊アルミニウム塊銅塊の説明を
附加し居り餘處有は相違致し候はす
や(七明生)▲附近の人民雜言の注釋
らしきガキ一應靴尤の様に開れり
と姓名も名乗らずしての落口は餘り



最上醬油

朝朝朝
仁仁仁
川川川
造造造
場場場
送送送
釀釀釀
油油油
醬醬醬
杉杉杉
高

夫人

月やく
御手紙
に御知らせ致す
至に京神田錦町三ノ一九 境田口

小冊子
先づお読み
先づお読み
先づお読み

男子用ササ
定価一冊一個金一圓
同入會圓七拾錢
定入會圓七拾錢
定入會圓七拾錢

佐々木金三郎
白檀油代用藥
永見及歌文
並送り家

白檀油代用藥
永見及歌文
並送り家

白檀油代用藥
永見及歌文
並送り家

夫人
山崎榮一
五錢
初手
初手
初手

日本郵船仁出帆
三高
大運太
河津
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

朝鮮郵船
仁出帆
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

尼崎汽船出帆
仁出帆
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

大阪商船出帆
仁出帆
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日

釜山發
九月十九日
九月十八日
九月十八日
九月十八日